

あたたかい子  
かしこい子  
たくましい子

学校だより

つよし

—第17号—

令和3年8月9日  
平戸市立津吉小学校  
文責 校長 田川定司

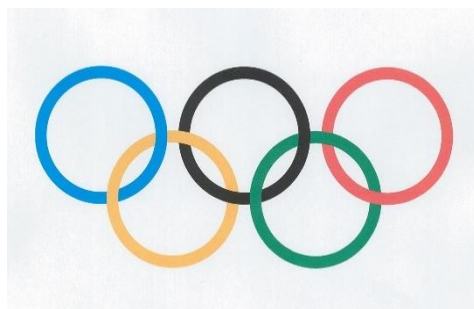
## 今日は登校日、平和集会を行いました

夏休みが始まって、今日で20日目です。夏休みも残り半分となりました。夏休みの宿題や課題など、計画的に進んでいるでしょうか。夏休み残り後半も、計画的に充実した夏休みが送れるよう願っています。さて、今日8月9日は「長崎原爆の日」です。津吉小学校でも平和集会を行い、平和への誓いを新たにしました。集会では、下記のような校長講話を行いました。

オリンピックは『平和の祭典』と言われます。古代オリンピックは、戦争を中断して開催されました。現代のオリンピックは、フランスのクーベルタン男爵によって1896年第1回大会がアテネで開催されました。クーベルタンは、「スポーツを通じて平和な世界の実現に寄与する」ことをオリンピックの目的に掲げました。また、「勝敗だけではなく、ルールを守り正々堂々と全力を尽くす」という「フェアプレーの精神」がオリンピックでは重視されました。

オリンピックが他の世界的スポーツ大会と大きく異なるのは、「平和の祭典」として開催される点です。ここで意味する「平和」とは、国家間の戦争・紛争の問題だけではありません。オリンピックが目指す「平和」とは、戦争・紛争以外にも、暴力、人種、障害、性別などに対する差別の根絶など、様々な課題の解決に及びます。

さて、オリンピックの旗は、「五輪旗」といいます。この5つの輪は、世界の5つの大陸アジア、ヨーロッパ、南北アメリカ、アフリカ、オセアニアを表しています。それがつながって世界が一つになっていることを示しています。



オリンピックの開催期間中、世界中から集まった多くの選手や関係者はオリンピック村で生活をします。国や地域を超えた交流の中で、友情やお互いを思いやる気持ちが育まれ、やがてスポーツを超えた世界平和につながることでしょう。

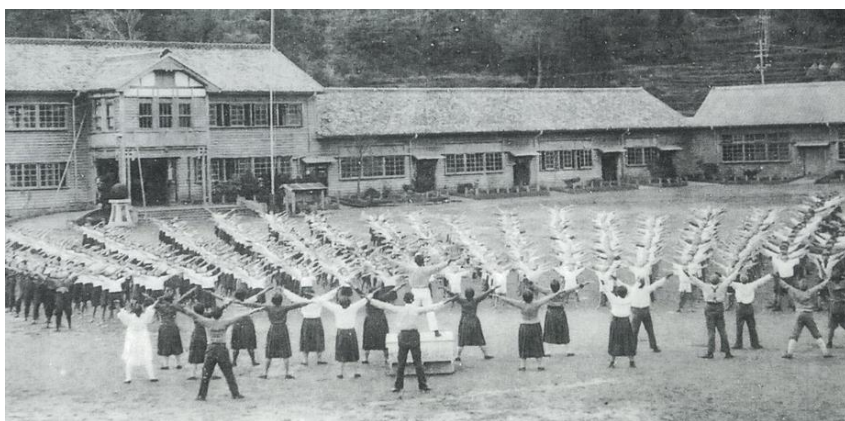
「平和の祭典」として開催された東京オリンピックも昨日で終了し、今日8月9日を迎えました。オリンピックは終了しましたが、オリンピックに込めた平和を願う人々の思いは、これからも引き継いでいかなければなりません。長崎で生まれ育った私たちは、「8月9日」という日を平和を考える日として大切にし、世界中に平和の大切さを発信して行ってほしいと思います。

戦後75年が経過し、その悲惨な体験を直接聞くことが難しくなっている今こそ、しっかりと戦争や原爆について学び、語り継いでいくことの大切さを感じています。また、戦争のない平和な世の中をつくる第一歩は、相手を思いやる「あたたかい心」を醸成することです。学校でも、子供たちに豊かな心を育て、人権意識を高めていけるよう今後とも努めてまいります。

また、平和集会での校長講話では、戦時中の津吉小学校の様子を、昭和20年の出来事を示したり、スライド写真で紹介したりしました。「戦争」は原爆が投下された長崎や広島、そして大都會の東京や大阪だけでなく、身近な平戸や津吉でも戦争による影響があったことを話しました。

## 【昭和20年の津吉小学校「学校沿革誌」より】

- ・ 4月30日 戦死者2名の村葬式
- ・ 5月10日 校医の先生、戦争召集
- ・ 6月 7日 志々伎村宮浦において敵機の襲撃を受ける。
- ・ 6月28日 佐世保大空襲。1,242名の方が亡くなる。
- ・ 7月27日 午後1時15分、敵機の銃掃射を受け、屋根・床、数十カ所貫通。窓ガラス、黒板、机等、破損。児童・職員は被害なし。
- ・ 8月15日 無条件降伏（終戦）の報あり。一同、悲憤の涙にくる。
- ・ 8月17日 米兵、佐世保入港の報あり。村民動揺する。



【左上写真】

全校児童でラジオ体操

【左下写真】

空襲に備えた防火訓練

【右下写真】

津吉小学校卒業写真



### 運動場上駐車場の整備ありがとうございました

運動会での駐車場確保が大きな課題でしたが、7月17日（土）、下記の皆様に整備していただきました。ありがとうございました。  
小川公一郎様・松本篤志様・江口一孝様・吉永大蔵様・神保俊一様・杉村初剛様・須藤博文様・藤川晴樹様・井手ロー一弘様・徳山正裕様・橋口良生様・（学校教職員からも6名参加）

また、吉住建設様・松本土建様より重機等の貸借を受けました。さらに、大村謙吾様より差し入れをいただきました。

### スクールバス運転手

スクールバス早福号運転手の大谷さんの後任として、吉永優さんが、8月より担当することになりましたので、お知らせいたします。